

## 『良い学校』って？

岐阜県 恵那市立恵那北中学校 3年  
瀬瀬 ほのか（こうけつ ほのか）

「この学校はいじめのない良い学校です。」ある先生が言った言葉。あなたには、どう聞こえますか。この言葉、私にとっては信じがたいものでした。

いじめ。この言葉はすごく曖昧です。私は中学二年のとき、何人かの女子から悪口を聞こえるように言われたり、嫌がらせを受けたりしていました。とても辛かったです。でも、いじめだと思ったことはありませんでした。いじめって、不登校とか自殺とかにまで人を追い込んでしまうもの。私が受けているのは軽い嫌がらせ。いじめはもっとひどいものだ。そう考えていたからです。休んだら女子たちに負けたことになる、思うつぼだ、そう思って、歯をくいしばり毎日学校に行き続けました。ただただ耐えて、涙をこらえて過ごしていました。

辛い状況が少しでも良くなればと、母や担任の先生にも相談しました。私は先生に「辛い状況は変わってほしいけれど、みんなには言わないでほしい。」と話しました。もし私の気持ちをみんなに伝えたら、もっと状況がひどくなるのではないか、でもこんなに辛いのは嫌だ、そんな気持ちの葛藤の末の言葉でした。話した数日後の、道德の授業。先生が配ったプリントには、自殺した生徒たちの遺書がいくつか載っていました。読んでみて衝撃を受けました。「私とされていること一緒じゃん！」そうです。遺書には、「聞こえるように言ってくる悪口に耐えられない」など、私と同じようなことをされて亡くなっていく子がいたのです。私のされていることもいじめなのか、初めてそう思いました。また、「何年前にいじめられていて、今は何もないけれど、突然記憶がよみがえってきて発作のようになり、屋上から飛び降りて亡くなってしまった。」という子もいました。耐えれば良い、いつかは変わる、私はそう思っていたからこそすごく怖くなりました。そして気づきました。状況が変わればすべて終わるわけではないのだと。

「この学校はいじめのない良い学校です。」このような心境にあった私に降りかかってきたのがこの言葉です。聞いたとき、耳を疑いました。周りの目を気にしつつ、溢れてくる涙を拭っている私がいまいました。苦しみが伝わっていない。この学校では辛い思いをしている人が誰一人いないことになっている。悔しかった、ものすごく。後輩にも、苦しんでいる子がいるのに。なぜそんなことがはっきりと言えるのか。悲しみと共に怒りもこみ上げてきました。

「いじめ」って何だっけ。やっぱり私の受けていたものはいじめではないのだろうか。では、自殺してしまった人たちの場合は…？頭も心もぐちゃぐちゃで、

訳が分からなくなり、私は母に涙ながらに話しました。母が教えてくれたのは、「いじめ防止対策推進法」でした。調べてみるとそこには、いじめの定義として主に「児童に対して他の児童などが行う心理的または物理的行為であり、その対象となった児童が心身の苦痛を感じているもの」と書かれていました。つまり、受けている側が苦痛を感じている、それだけでいじめとなるということです。いじめている側は、いじめているつもりはないかもしれません。周りも、いじめではないと思うかもしれません。たとえ、本人がいじめだと感じていても。人それぞれ感じ方は違います。当たり前です。だから、あの先生が「いじめのない学校」と言い切ることはできないはず。苦しんでいる生徒がいるかもしれないのに…。

私は、小学生のときも立場が弱く、言い返すことも何もできず、されるがままでした。だから、中学でも「ほのかになら何をしていても良い」そうになっていたのだと思います。「これくらいなら大丈夫。」そんなことは一つもないのです。いじめに基準はない、私はそう思います。

『良い学校』って？

やっぱり、「いじめのない学校」とははっきり言えるところでしょうか。いや私は、一人ひとりの気持ちを尊重し、いじめをなくそうと努力している学校だと思います。なぜなら、「いじめられている」そう感じた時点でいじめと言えるから。周りの人が勝手に決められるものではないから。苦しんでいる子がいるのに、人の気持ちを知らずして、「いじめがない」と言うのは信じられません。

私は今、辛い思いをせず、楽しい学校生活を送ることができています。理由はわからないけれど、悪口や嫌がらせがぐんと減りました。すごく辛かった、でもあの経験に学ぶことは多くありました。いじめを全てなくすことは不可能に近いと思います。だからこそ、いじめを「ない」ことにしてしまうのではなく、しっかり向き合って、なくす努力をするべきです。